

教科年間学習指導計画 — シラバス —

教科名	国語	学年・クラス	4年工業技術科
科目名	国語表現	単位数	2
教科書	国語表現（大修館書店・現国701）		
準教科書	なし		

育成を目指す 資質・能力	知識・技能 言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を身につけている。	思考・判断・表現 「話すこと・聞くこと」において、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫する力、視点を明確にして聞きながら、話の内容に対する共感を伝えたり、相手の思いや考えを引き出したりする工夫する力を身につけている。	主体的に学習に取り組む態度 わかりやすく正確に文章で説明しようとしている。
学習の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を基に、身近な例や社会の出来事などを交えながら読解力を深める。 プリントやノートを用いて、学習状況の確認を行う。 振り返り学習を行いながら、基礎基本の定着を図りつつ学習を進める。 		
学習の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間の出席を基本とし、学習用具（教科書、ファイル、ノート、筆記用具など）は忘れないこと。 わからないことはそのままにせず、その都度質問し、疑問解消に努めること。 授業規律を遵守すること。 学習、授業の妨げとなるような行動をとらないこと。 		
評価の方法	出席状況、提出物の状況、各種テストの得点、授業の取組姿勢などを総合的に判断し評価する。		

授業の内容	学期	月別	時間	単元	評価基準			資質能力			
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
授業の内容	1学期	4	13	レッスン1 通信文を書き分ける	・書き言葉の特徴や役割、表現の特色、通信文ごとの形式の違いについて理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。	・「書くこと」において、自分の思いや考えを明確にし、事象を的確に描写したり説明したりするなど、表現のしかたを工夫している。	・さまざまな通信文の使い分けや、手紙の書き方に興味をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。	主体 自他 継続 ミ 思考 判断 対応 基礎 専門			
					5	12	レッスン2 電話を使いこなす		・話し言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し使い分けている。	・相手に応じて言葉を選んだり、電話のマナーを意識したりやりとりを工夫したり、相手の同意や共感が得られる表現を工夫している。	・さまざまな通信文の使い分けや、手紙の書き方に興味をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。
		6	10	レッスン3 電子メールを活用しよう					・伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分ける。	・「書くこと」において、電子メールの特徴を理解し、注意点や適切な表現のしかたを意識して電子メールを送っている。	・議論やワークシートへの書き込み、課題の提出をとおして、電子メールの特徴や活用法について理解しようとしている。
									7	5	レッスン4 ネット社会との付き合い方
		2学期	10	7	レッスン5 ネットを活用した情報収集	・言葉には、自己と他者の相互理解を深める働きがあることを理解する。	・「話すこと・聞くこと」において、共感を伝えたり、相手の思いや考えを引き出したりする工夫をして、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。				
	11					7	レッスン6 メディアと情報		・さまざまなメディアの種類や特徴、メディアリテラシーをもとにした情報との向き合い方について理解を深めている。	・「書くこと」において、メディアとの付き合い方を題材に設定して多様な資料を集め、調べたことを整理したり話し合ったりして、自分や集団の意見をまとめている。	・さまざまなメディアの特徴とそれから得られる情報について興味をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。
			12	8	ユーモア取説を書こう				・説明書の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。	・「書くこと」において、説明すべき事柄を明確にし、事象を効果的に説明するなど、表現のしかたを工夫している。	・ユーモラスな取扱説明書を書くことに興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。
									2	3	
	計			62							

教科年間学習指導計画 — シラバス —

教科名	公民	学年・クラス	4年工業技術科
科目名	政治・経済	単位数	2
教科書	最新政治・経済（実教・政経703）		
準教科書	なし		

育成を目指す 資質・能力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度					
	政治・経済に関わる基本的事項を理解し、その知識を身に付けている。学習内容に関わる諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択するとともに効果的に活用し、現代日本の政治的・経済的事象を考察することができる。	現代日本の政治と経済にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現することができる。	現代日本の政治と経済にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追求するとともに、平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け人間としての在り方生き方についての自覚を深めようと学習に取り組むことができる。					
学習の進め方	①教科書の内容を中心に、歴史的事象を様々な視点から説明し、生徒の理解を深める。 ②映像などの資料を示すことにより、歴史的事象を理解しやすいように学習を進める。 ③ノート・授業プリントなどを用いて学習状況の確認を行う。 ④他の科目など（公共、地理総合、政治経済）と関連させながら、学習を進める。							
学習の留意点	①毎時間の出席を基本とする。授業に使用する物（教科書・ノートなど）は、忘れず準備すること。 ②板書事項はノートに書き留め整理しておくこと。また、授業中に提示された課題は毎時間ごとに取り組むこと。いずれも指定された期限内に提出すること。 ③授業における疑問・質問は放置せずその都度解消するように努め、意見・感想を発言するなど、積極的な姿勢で授業に参加すること。 ④日頃から、社会の出来事やニュースと学習事項との関連性を意識しておくこと。							
評価の方法	出席状況・授業態度・ノートや授業プリントなど提出物の取組み状況・授業時間内に行う単元テストを基に、「評価の観点（3項目）」に照らした評価を元に、総合評価を行う。							
授 業 の 内 容	学 期	月 別	時 間	単 元	評 価 基 準	資 質 能 力		
	1 学 期	4	4	第1編 現代日本の政治 1. 民主政治のしくみと課題	現代日本の政治的・経済的事象に関する知識を身に付け、現在の社会が成立し発展してきた過程を理解することができる。必要な諸資料を収集し、それを的確に用い社会的な事象を考察することができる技能を身に付けている。	現代日本の政治的・経済的事象から課題を見だし、日本を取り巻く国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、課題を解決するために必要な視点を適切に表現することができる力を養っている。	政治・経済を学ぶ意義に気づき、現代日本の政治的・経済的な課題を歴史的な展開を視野に入れ意欲的に調べ考え、関心を持って学習に取り組む主体としての自覚を深めている。	主体 自他 継続 コミ 思考 判断 対応 基礎 専門
		5	6	2. 世界のおもな政治制度				
		6	8	3. 日本国憲法の成立				
		7	4	4. 日本国憲法の基本原理				
		8	4	5. 国民の権利				
		9	8	6. 公共の福祉				
		10	8	7. 平和主義と自衛隊				
		11	8	8. 日米安保体制				
		12	6	9. 21世紀の平和主義				
		13	4	10. 政治機構と国会				
	2 学 期	1	4	11. 内閣と行政機能	第1編と第2編の学習で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や政治・経済の展開の中で発生する諸事象を理解するための基本的視点を活用するとともに、第1編及び第2編で習得した知識及び技能を活用している。	地域創造や、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、ともに生きる社会を築いていくという観点から課題を見出し、その課題の解決に向けて論拠を明示して自分の考えを説明、論述している。	よりよい社会の実現を視野に入れつつ、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、ともに生きる社会を築くという観点から課題を見出し、諸課題を主体的に解決しようとしている。	主体 自他 継続 コミ 思考 判断 対応 基礎 専門
		2	6	12. 公正な裁判の保障				
		3	4	13. 地方自治と住民福祉				
4		4	14. 政党政治と選挙制度					
計		70						

教科年間学習指導計画 — シラバス —

教科名	数学	学年・クラス	4年工業技術科
科目名	数学Ⅱ	単位数	2
教科書	新編 数学Ⅱ（啓林館・数Ⅱ707）		
準教科書	なし		

育成を目指す 資質・能力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。	関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付ける	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付ける。
学習の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・例題などを用いて解法の解説を行い、それに関連する練習問題に取り組むことで学習の定着を図る。 ・授業内容は各自ノートに記載し、授業の最後に提出する。また、必要に応じてプリント提出を課す。 ・本時の内容や前時の内容の理解度を確認する小テストを実施する。 ・いくつかの単元ごとに内容の理解度を確認する単元テストを実施する。 		
学習の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中は学習に集中して取り組み、小テストで確実に得点をとることができるようにする。 ・ノート、プリントなどの提出を課されたものは確実に提出する。 ・学習の障害になると判断される行動をとらない。 		
評価の方法	出席状況、提出物の状況、各種テストの得点、授業の取組姿勢などを総合的に判断し評価する。		

学期	月別	時間	単元	評価基準			資質能力
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
授 業 の 内 容	1	4	第4章 三角関数	<ul style="list-style-type: none"> ・角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方について理解することができる。 ・三角関数の相互関係などの基本的な性質を理解することができる。 ・三角関数の加法定理や2倍角の公式、三角関数の合成について理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三角関数に関する様々な性質について考察することができる。 ・三角関数の加法定理から新たな性質を導くことができる。 ・三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察することができる。 	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。	主体 自他 継続 思考 対応 基礎
		5	第1節 一般角と三角関数				
	6	第2節 三角関数の加法定理					
	7	8	第5章 指数関数と対数関数	<ul style="list-style-type: none"> ・指数法則を用いて数や式の計算をすることができる。 ・指数関数の値の変化やグラフの特徴について理解することができる。 ・簡単な対数の計算をすることができる。 ・対数関数の値の変化やグラフの特徴について理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指数と対数を相互に関連付けて考察することができる。 ・指数関数及び対数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察することができる。 		
8	第1節 指数と指数関数						
学 期 内 容	2	9	第2節 対数と対数関数	<ul style="list-style-type: none"> ・関数とその導関数との関係について考察することができる。 ・関数の局所的な変化に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 ・微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求めることができる。 	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。	主体 自他 継続 思考 対応 基礎	
		10	第6章 微分と積分				
		11	第1節 微分係数と導関数				
学 期 計	12	5	第2節 導関数の応用	<ul style="list-style-type: none"> ・不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分の値を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関数とその導関数との関係について考察することができる。 ・関数の局所的な変化に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 ・微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求めることができる。 	主体 自他 継続 思考 対応 基礎	
							1
計		62					

教科年間学習指導計画 — シラバス —

教科名	数学	学年・クラス	4年工業技術科
科目名	数学A	単位数	2
教科書	新編 数学A (啓林館・数A710)		
準教科書	なし		

育成を目指す 資質・能力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を身に付ける。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を身に付ける。
学習の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 例題などを用いて解法の解説を行い、それに関連する練習問題に取り組むことで学習の定着を図る。 ・ 授業内容は各自ノートに記載し、授業の最後に提出する。また、必要に応じてプリント提出を課す。 ・ 本時の内容や前時の内容の理解度を確認する小テストを実施する。 ・ いくつかの単元ごとに内容の理解度を確認する単元テストを実施する。 		
学習の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業中は学習に集中して取り組み、小テストで確実に得点をとることができるようにする。 ・ ノート、プリントなどの提出を課されたものは確実に提出する。 ・ 学習の障害になると判断される行動をとらない。 		
評価の方法	出席状況、提出物の状況、各種テストの得点、授業の取組姿勢などを総合的に判断し評価する。		

学期	月別	時間	単元	評価基準			資質能力
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
授 業 の 内 容	1	4	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 第2節 順列・組合せ 第3節 確率とその基本性質 第4節 いろいろな確率	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則などの教え上げの原則について理解している。 ・ 具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求めることができる。 ・ 確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値を求めることができる。 ・ 独立な思考の意味を理解し、独立な思考の確率を求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事象の構造などにし着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 ・ 確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察することができる。 ・ 確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりすることができる。 	数学のよさを認識し数学を活用しようとしている。粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	主体 自他 継続 思考 対応 基礎
		5					
		6					
		7					
内 容	2	10	第2章 図形と性質 第1節 三角形の性質 第2節 円の性質 第3節 空間図形	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三角形に関する基本的な性質について理解することができる。 ・ 円に関する基本的な性質について理解することができる。 ・ 空間図形に関する基本的な性質について理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 ・ コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統一的・発展的に考察すること。 	数学のよさを認識し数学を活用しようとしている。粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	主体 自他 継続 思考 対応 基礎
		11					
		12					
		1					
		2					
計		70					

教科年間学習指導計画 — シラバス —

教科名	保健体育	学年・クラス	4年工業技術科
科目名	体育	単位数	2
教科書	なし		
準教科書	なし		

育成を目指す 資質・能力	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度				
	<p>運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解する。目的に応じた技能を身に付けている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。</p>	<p>自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫できるとともに、それらを他者に伝えられる。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断できるとともに、それらを他者に伝えることができる。</p>	<p>運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組むことができる。また、健康を大切に、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組むことができる。</p>				
学習の進め方	<p>・一斉授業及び、男女共修で授業を展開する。 ・単元毎に実技（授業）を進める上で自分で課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることができるようにする。</p>						
学習の留意点	<p>・他との協調性を身に付けるとともに、運動に親しむ姿勢を身に付ける。 ・一斉授業又はグループ学習により、生徒の自主性、協調性、責任感などを育てる。 【服装について】 指定ジャージ・指定上靴を着用すること。</p>						
評価の方法	「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」を総合的に判断し評価する。						
授業の内容	学月時間	単元	評価基準	資質能力			
	1 学期	4 1	<ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動 ・集団行動 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できるとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、話し合いに貢献しようとするなど、健康・安全を確保したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他継続判断基礎
		5 14	・バスケットボール	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 ・安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによって相手コートまでやゴールまでの攻防をすることができる。 ・役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できるとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体自他継続コミ判断対応基礎継続
		6 16	・バレーボール	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断できるとともに、他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考判断基礎
		7 4	<ul style="list-style-type: none"> ・体育理論 ・新体力テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断できるとともに、他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考判断基礎
		8 4	<ul style="list-style-type: none"> ・体育理論 ・新体力テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断できるとともに、他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考判断基礎
	2 学期	10 14	・フットサル	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 ・安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによって相手コートまでやゴールまでの攻防をすることができる。 ・役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できるとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体自他継続判断対応基礎継続
		11 12	<ul style="list-style-type: none"> ・フットサル 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 ・安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによって相手コートまでやゴールまでの攻防をすることができる。 ・役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できるとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体自他継続判断対応基礎継続
		12 13	・バドミントン	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 ・安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによって相手コートまでやゴールまでの攻防をすることができる。 ・役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫できるとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体自他継続判断対応基礎継続
	計	62					

教科年間学習指導計画 — シラバス —

教科名	工業	学年・クラス	4年工業技術科
科目名	課題研究	単位数	3
教科書	なし		
準教科書	なし		

学習の目標	工業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育む。								
学習の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・最初のオリエンテーションでは、自らが取り組む課題の選択・計画立案を行います。 ・班ごとに作品の製作などの課題に取り組みます。 ・最終日に発表会を行い、研究の成果を確認します。 								
学習の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の出席を基本とするので欠席をしないこと。 ・担当教員の指示に必ず従い、人の話をよく聞くこと。 ・安全防具などを必ず着用し、常に安全を意識してふざけず真剣に作業に取り組むこと。 ・課題に対して自ら考えて行動し、解決に向けて積極的に取り組むこと。 								
評価の方法	下記の評価の観点を基に各担当教員が評価を行い、最終的に全担当教員で協議して決定する。								
評価の観点	主体的に取り組む態度	工業的な事柄に関心を持ち、課題の設定、計画の立案および実習作業に対して自主的、主体的、意欲的かつ安全な態度で取り組んでいるか。							
	思考・判断・表現	工業的な事柄を分析的、総合的に判断し、効率のよい工程や目的通りの仕上がりを意識しながら作業を行っているか。							
	知識・技能	機械や工具の取扱いを理解し、これまでに習得してきた工業的な知識や技能を発揮して作業をすることができているか。							
授業の内容	学期	月別	時間	単元	学習内容	学習の観点	資質能力		
	1	4	2	ガイダンス オリエンテーション	1年間の大まかな学習内容や留意点などの説明を受け、テーマおよび班編制について決定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容や留意点などを理解することができる。 ・課題研究の目的を理解し、自分の取り組みたいテーマを決定することができる。 	主体基礎 コミ判断		
				6	自主課題	テーマ別に課題について取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに習得した知識や技能を活用しながら、作業計画や手順を踏まえて正しく作業を進めることができる。 ・問題が発生した場合、それを的確にとらえて解決することができる。 	主体思考 判断対応 専門	
				8					
				8					
				8					
	2	10	20	8	発表準備	プレゼンテーション資料の作成や発表練習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフトを活用しながら、人に伝わる資料を作成することができる。 ・発表時間を意識しながら、聞き取りやすい発表をすることができる。 	主体 他 コミ 思考 判断 対応	
				12	4	課題研究発表会	全校生徒の前で研究成果のプレゼンテーションを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・成果の表現が適切にできる。 ・自己評価や相互評価が適切にできる。 	主体 思考 対応
				11					
	計		93						

教科年間学習指導計画 — シラバス —

教科名	工業	学年・クラス	4年工業技術科
科目名	実習	単位数	3
教科書	なし		
準教科書	なし		

学習の目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。	
学習の進め方	①毎時間の始めに、本時の作業内容・予想される事故を確認してから実習を開始する。 ②在籍人数に応じて班編制を組み、各班のテーマは前後期とも3時間×5週を基本とする。	
学習の留意点	①毎時間の出席を基本とする。 ②欠席した場合または実習時間内に作品や課題を提出できない場合は、各テーマ担当教員に対して補習対応などを依頼する。 ③作業服や安全防具などを必ず着用し、常に安全な作業を心掛ける。	
評価の方法	実習内容ごとに評価を行い、学年末に担当全員で協議したうえで最終評価を決定する。	
評価の観点	主体的に取り組む態度	実習内容に関心をもって担当教員の指導を聞き、安全に配慮した作業を行うことができるか。
	思考・判断・表現	指導された内容を理解した上で、効率のよい作業方法を自ら考え判断し作業を行うことができる。
	知識・技能	実習の方法を把握し、完成度の高い作品を製作することができる。 各種機械と加工方法について理解している。

授業の内容	学期	月別	時間	単元	学 習 内 容	学 習 の 観 点	資 質 力
の 内 容	1 学 期	4	6	板金溶接Ⅰ	ゴミステーション 材料・組立	<ul style="list-style-type: none"> ・実習服や安全防具などを正しく着用する。 ・各実習項目で可能性のある危険を学習する。 ・各種機械や工具の名称を学習する。 ・実習内容の理論や仕組みを学習する。 ・機械の操作方法を学習する。 ・効率がよい後片付けや掃除を自ら行う。 ・効率よく製作がすすむよう、協力して作業をすすめることができる。 	主体 継続 思考 判断 基礎 専門
			5				
		2 学 期	6	6	板金溶接Ⅱ		
	9						
	7		3	木材加工Ⅰ	踏み台チェアの製作		
	8	6					
9	3						
2 学 期	10	9	機械加工総合実習Ⅰ	卓上万力の部品の製作	<ul style="list-style-type: none"> ・実習服や安全防具などを正しく着用する。 ・各実習項目で可能性のある危険を学習する。 ・各種機械や工具の名称を学習する。 ・実習内容の理論や仕組みを学習する。 ・機械の操作方法を学習する。 ・効率がよい後片付けや掃除を自ら行う。 	主体 継続 思考 判断 基礎 専門	
		6					
	11	9	機械加工総合実習Ⅱ	小型万力の製作			
6							
12	9	木材加工Ⅱ	踏み台チェアの製作				
1	3						
計		93					

教科年間学習指導計画 — シラバス —

教科名	工業	学年・クラス	4年工業技術科
科目名	製図	単位数	2
教科書	製図（実教出版・工業707）		
準教科書	なし		

学習の目標		<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでに習得した、製図に関するJIS（日本工業規格）及び機械製図や各種建築工事についての基礎的な知識と技術を土台とし、CADソフトを用いて図面を構想し製作する能力と態度を育てる。 					
学習の進め方		<ul style="list-style-type: none"> ・ 機械製図における規格、種類、図示法、構造などについての基礎を学習する。 ・ 製図の基礎を理解し、製図法について段階的に復習しながら習得する。 ・ JWCADの基本操作を習得し、製図を製作する。 					
学習の留意点		<ul style="list-style-type: none"> ・ JWCADの各機能を理解して、使いこなすことができる。 ・ 作成する図面の記号や寸法などを理解した上で図面を作成する。 ・ 提出期限を厳守する。 					
評価の方法		<ul style="list-style-type: none"> ・ 出席状況・製図の取組み状況（毎時間）と製図に対しての理解、知識や技術が身に付いたか評価を行う。 					
評価の観点	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ CADソフトを用いた製図について関心や探求心を持ち、意欲的に追求する態度を身に付けようとしている。 					
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製図における基礎的・基本的な知識を活用して、適切に判断し、創意工夫してCADソフトを用いた製図法を身に付けようとしている。 					
	技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ J I S規格やCADソフトの機能と基本操作について理解し、それらを活用して作図することができる。 					
	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図面におけるCADソフトを用いた作図法や、手描き製図との違いについて理解することができる。 					
授業の内容	1学期	月別	時間	単元	学習内容	学習の観点	資質能力 関心意欲 態度 思考 判断 表現 技能 知識 理解
		4	6	第4章 機械要素の製図	小型万力部品の作図	<ul style="list-style-type: none"> ・ 枠線及び表題欄を描くことができる。 ・ 製図の実技能力や基礎知識が理解できる。 ・ 実線、細線を描き分けることができる。 ・ 寸法記入を正しく描くことができる。 ・ 縮尺を理解して正しく作図することができる。 ・ 組立図と部品図の関係を正しく理解し、作図することができる。 	
		5	10				
		6	8				
		7	4	第4章 機械要素の製図	小型万力組立図の作図		
		8	4				
	9	4					
	2学期	10	4	レタリング法	文字デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本の書体を理解し、整った文字を書くことができる。 ・ 様々な書体の違いについて理解している。 ・ 製図のルールに従い、トレースすることができる ・ 図面を表現する際の初歩的な事項について理解している。 	関心意欲 態度 思考 判断 表現 技能 知識 理解
		11	8		書体の理解		
		12	6	トレース技法	線の基本 製図用文字		
		1	4		簡単な図 簡単な製図		
		2	6		図面表現に関する初歩的事項		
		3	6				
	計	70					